

平成31年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） 行動科学 全2枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 2 枚、解答用紙 3 枚を配付する。

解答用紙は1問につき1枚を使用すること。

解答の際には問題番号を明記すること。

問1

「心の文化差」の原因を説明する複数の異なる理論的視点を挙げ、それぞれの長所と短所を論じなさい。その際、できるだけ具体的な研究例を挙げながら説明しなさい。

問2

以下の架空の質問紙調査とそこで得られたデータの分析に関する文章を読み、2つの問（問題 2-1 および問題 2-2）に答えよ。

（質問紙調査 A）

「自尊心が高い人ほど人生の幸福度が高い」という仮説を検証するため、日本のある大学である講義を受講する学生 100 人を対象として質問紙調査を実施した。質問紙では、自尊心を測定するために、米国で開発され日本語に翻訳された特性自尊心尺度（全 10 項目；以下自尊心尺度 I と呼称）、ある日本の研究チームが独自に開発した特性自尊感情尺度（全 15 項目；自尊心尺度 II）が含まれていた。また主観的な幸福度を測定するために、米国で開発された主観的生活満足感尺度の日本語版（全 5 項目；幸福尺度 I）、日本の研究チームが独自に開発した人生に対する幸福感尺度（全 10 項目；幸福尺度 II）が含まれていた。

なお参加者はすべての 40 項目に回答し、欠損値はなかったものとする。いずれの尺度も、値が大きいほど自尊心が高い、あるいは満足度が高いことを示す。またデータを収集後、4 つの尺度について信頼性係数（Chronbach's α ）を求めたところ、すべての尺度において 0.8 以上の値であった。

4 つのピアソンの相関係数を求めて、有意性検定を行った。以下の結果が得られた。

質問紙調査 A の結果（サンプル数 100 人）

自尊心尺度 I × 幸福尺度 I:	$r = .14, p = .164$
自尊心尺度 I × 幸福尺度 II:	$r = -.09, p = .373$
自尊心尺度 II × 幸福尺度 I:	$r = .06, p = .553$
自尊心尺度 II × 幸福尺度 II:	$r = .20, p = .046$

（質問紙調査 B）

次に別の大学で心理学の講義を受講する大学生 100 人に対して全く同様の質問紙調査を実施し、同

様の分析をおこなった。質問紙調査 A と同様、欠損値はなかったものとする。データを収集後、4つの尺度について信頼性係数（Chronbach's α ）を求めたところ、すべての尺度において 0.8 以上の値であった。

質問紙調査 B の結果（サンプル数 100 人）

自尊心尺度I × 幸福尺度I:	$r = -.01, p = .921$
自尊心尺度I × 幸福尺度II:	$r = .22, p = .028$
自尊心尺度II × 幸福尺度I:	$r = -.02, p = .843$
自尊心尺度II × 幸福尺度II:	$r = .09, p = .373$

質問紙調査 A では、仮説通り、自尊心尺度 II と幸福尺度 II の間に 5%水準で有意な正の相関が得られた。また質問紙調査 B でも、自尊心尺度 I と幸福尺度 II の間に 5%水準で有意な正の相関が得られた。以上の結果から、2 つの調査を実施した研究者は「自尊心が高い人ほど人生に対する幸福感が高いという仮説は支持された」と結論付けた。

問題 2-1.

この研究者が下した結論には問題があり、妥当とは言えない。どのような問題があるか指摘せよ。

問題 2-2.

これら 2 つの質問紙調査の結果から、あなたならどのような結論を下すか？記述せよ。

問 3

次のすべての語句を簡潔に説明しなさい。その際、その語句に関連した著名な実験・調査や研究者などの説明を添えること。

- (1) 道徳性発達理論 (Stages of moral development)
- (2) 社会的カテゴリー化理論 (Social categorization theory)
- (3) 社会的手抜き (Social loafing)
- (4) 沈黙の螺旋 (The spiral of silence)